

Medical Technology News

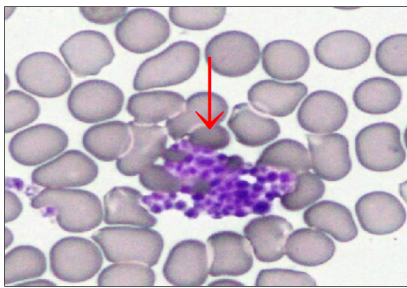
LOOK



EDTA依存性 偽性血小板減少症

ば用Dされ偽低
よ使E化ま性血
とをのEと集塊より
A管を造と集塊より
T血が、この凝集塊より
D採が、この凝集塊より
Eの採が、この凝集塊より
は入りの表面を凝集塊より
に一般的形成を凝集塊より
測定剤の形成を凝集塊より
固定一般の形成を凝集塊より
測定の形成を凝集塊より
血小板凝集を凝集塊より
小抗の凝集を凝集塊より
血するA凝集を凝集塊より
れすTに、あ性機と板値
性機と板値

対策として、別の抗凝固剤の入った採血管を使用するか、血小板が低い場合、顕微鏡で血小板凝集を確認しています。



顕微鏡での血小板凝集像

新年あけましておめでとうございませう。
ここに新たな気持ちで新年を迎えることが出来たことを喜ばしく思い、旧年中の皆様のお導きに心より感謝申し上げます。さて、去年は世相を表す漢字一文字として「災」が第一位のとなり、集中豪雨や地震にみまわれ北海道でも胆振東部地震は記憶に新しく、多くの人命が失われました。今年の干支は亥（いのしし）です。「いのしし」は「無病息災」の象徴とされ

新年のご挨拶



ており、息災は本来仏の力で災を止めることとあり転じて健康で無事なことがなっております。今年はそのように災害等の被害で人命が失われる事がないうつ心から祈るばかりです。また、「いのしし」といえば「猪突猛進」という言葉も浮かびます。検査室としても今年は何事も良い方向にまっしぐらに進むよう職員一同努力していく所存であり、年末には笑顔で翌年を迎えたいと願っております。本年も皆様の変わらぬご指導ご鞭撻を心よりお願い申し上げます。

2019年皆様にとって幸多き一年となりますように。

臨床検査室新聞

2019年 1月
第80号
発行元 八雲総合病院
臨床検査室



チェック！

敗血症と血液培養

敗血症は、体内に微生物（細菌・カビ・ウイルスなど）の侵入をきっかけとして感染症を起し、全身に激しい炎症がみられる症状のことをいいます。体の中に微生物が入ると、体を守るため微生物とたたかう、いわゆる炎症反応が



ほっと time

寒くてあまり外出したくない時期です。でも、ウィンタースポーツやワカサギ釣りなど、冬にしかできないことを体験することで冬を楽しみたいですね。



- ### ＜主な症状＞
- 悪寒とふるえ、体温の変動（体温38℃以上、または36℃以下）
 - 身体の痛みや不快感
 - 冷たく湿潤した皮膚
 - 意識低下（混乱や見当識障害）
 - 息切れ、頻呼吸（呼吸数が1分間に20回以上）
 - 頻脈（心拍数が1分間に90回以上）
- 敗血症の診断はいくつかありますが、血液培養が有効です。方法は、保存液が入った専用ボトル（右下写真）に採取した血液を入れ、自動培養装置で数日培養します。

起りますが、この炎症反応が過剰になつてしまうことで臓器障害を起します。さらに重症化した場合、多臓器不全などを起し生命に危険が及ぶこともあります。敗血症の症状は、発症と共に様々な症状の組み合わせで出現します。敗血症というのは何らかの感染症の結果で起こりますので、嘔吐・下痢など、かぜに類似の症状を伴うこともあります。



検査の基本

血液培養3ヶ条

- 1、指示がでたら「すぐ」採るべし！
血液を採取するタイミングが遅くなると検出率が下がります。
- 2、採取部位の消毒は「確実」に行うべし！
皮膚常在菌の混入を極力防ぐことが重要です。
- 3、成人は「二セット」採るべし！
一セットのみだと起因菌がコンタミネーションの区別が付きません。



血液培養専用ボトル
左と中央は成人用(2本使用)、右は小児用

編集後記

昨年度は国内外を問わず災害などいろいろなことがおきました。
今年新しい天皇の即位に伴い元号が変わるので、世の中の情勢も良い方向に向かえばよいですね。

